



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	2013年度社会科・地歴公民科の評価に関する取り組み(fulltext)
Author(s)	秋山,寿彦; 来栖,真梨枝; 中村,文宣; 長谷川,智大; 藤木,正史 ; 古家,正暢; 山本,勝治; 津山,直樹
Citation	国際中等教育研究 : 東京学芸大学附属国際中等教育学校 研究紀要(7): 5-9
Issue Date	2014-03
URL	http://hdl.handle.net/2309/137055
Publisher	東京学芸大学附属国際中等教育学校
Rights	

2013年度社会科・地歴公民科の評価に関する取り組み

Initiatives for Assessment in Social Studies

(Geography, History and Civics) in SY2013

社会科

秋山寿彦 来栖真梨枝 中村文宣 長谷川智大
藤木正史 古家正暢 山本勝治 津山直樹

要旨

本校は国際バカロレア (International Baccalaureate) の中等教育プログラム (Middle Years Programme) を導入しており、社会科はMYPのHumanitiesに相当する。本校社会科の概要およびMYPの評価規準の導入による教育効果について報告するとともに、Humanitiesの新旧評価規準を比較し、評価規準の改訂に伴う課題について問題提起する。

1 はじめに

2007年度に第1学年 (中学1年に相当) のみで開校した本校は、昨年度 (2012年度)、第1学年～第6学年 (中学1年～高校3年) のすべての学年が揃い、2013年3月に初めての卒業生を出した。開校以来、第1学年～第4学年 (中学1年～高校1年) を対象に国際バカロレア (International Baccalaureate、以下IBと略記) の中等教育プログラム (Middle Years Programme、以下MYPと略記) を導入しており、社会科 (後期課程 [高等学校段階] の地歴科・公民科も含む、以下略) は、MYPのHumanities (人文科学) の評価規準で観点別評価を行っている。昨年 (2012年)、MYPのLanguage B (英語、およびその他の外国語) とHumanitiesの評価規準が変更されたため、本校の社会科に関しても、第1学年～第4学年を対象としたすべての科目について今年度 (2013年度) からこの新しい規準で評価しなければならなくなった。

そこで、評価規準の変更に伴う現状および今後の課題を見通しながら、開校して7年目にあたる今年度 (2013年度) の社会科の取り組みについて、評価を中心に報告する。

2 本校の社会科 (地理歴史科・公民科) の概要

(1) 目標

次の項目は、年度当初にすべての教科・科目に関して生徒に提示している「学習内容と評価」のうち、社会科に関するものである。

社会科では、6ヵ年を通して、次のことを目標とし、学習を進めます。

- ◇ グローバル化が急速なスピードで進む今日、国際社会の一員として、現代社会の課題に興味や関心を持つ。
- ◇ 現代社会の課題を地域で生きる自分の生活と結びつけ、多面的多角的に考え、自分のことばで表現していく力を培う。

社会科の学習では、具体的に次のような力を培っていきたいと考えます。

- 新聞やテレビで報道される社会的な出来事に対して知的好奇心を抱く力

- 地図や統計資料、年表や読み物資料、写真や映像資料等を読み解く力
- 社会的な事象に対する自分の考えを論理的な文章でまとめる力
- 学習した内容を、レポート・地図・ポスター・新聞などの形式に表現する力
- 習得した知識を活用して、社会的な事象について説明する力
- 持続可能な発展（ESD）について自分の考えを論理的にまとめ、表現する力

(2) 6年間のカリキュラム

6年間に開設している科目は、下記の表の通りである。イマージョン社会（第3学年）と国際A（第6学年）は社会科の科目ではないが、社会科教員が担当する科目なので表に含めた。なお、表中の※は、イマージョンに関わるものである（次節参照）。

学年		分野・科目	内容・備考	週あたりの時間数 ・単位数	
第1学年	MYP 対象 学年	地理的分野 ※	基礎地理	3	必履修
第2学年		歴史的分野 ※	基礎歴史	3	
第3学年		歴史・公民的分野	歴史2時間＋公民2時間	4	
		イマージョン社会 ※	社会科的なトピック	1/2	
第4学年		現代社会		2	
	世界史A イマージョン世界史A※	19世紀を中心とした世界史	1		
第5学年		世界史A イマージョン世界史A※	20世紀を中心とした世界史	1	選択 必履修
		日本史A	近現代日本史（19世紀～）	2	
		地理A		2	
第6学年		世界史B	前近代世界史（～18世紀）	4	自由 選択
		日本史B	前近代日本史（～18世紀）	4	
		地理B		4	
		倫理		2	
		政治・経済		2	
		イマージョン政治・経済※		2	
	学校 設定 科目	歴史特講（世界史）		2	
		歴史特講（日本史）		2	
	地理特講		2		
	国際A	憲法と人権	2		

(3) イマージョン授業（英語による授業）

「(2) 6年間のカリキュラム」のうち、イマージョン授業を次のように開設している。

- プレ・イマージョン（第1学年・第2学年）
年間授業のうち1～3つのトピックにおいて、英語による授業を実施している。

- イマージョン（第3学年）
年間を通して週1単位時間、「イマージョン」を開設している。社会科、数学科、理科、美術科の教科的な内容に関わる4テーマをローテーションで英語により学習する。
- イマージョン世界史A（第4学年・第5学年）
日本語による世界史Aと同時間帯に開設している。生徒は、日本語による世界史Aか英語によるイマージョン世界史Aかいずれかを選択して履修する。
- イマージョン政治・経済（第6学年）
日本語による政治・経済とは別時間枠で開設している。

3 社会科における評価規準の概要

(1) MYPの評価規準の改訂

前述したように、MYPのHumanitiesの評価規準が改訂されたことに伴い、第1学年～第4学年を対象とした社会科のすべての科目について、今年度（2013年度）からこの新しい規準で評価しなければならなくなった。日本の学習指導要領が改訂された際には学年進行に伴って新課程を適用することになっており、移行期間が設けられるなどの配慮もあるが、IBの場合はこれとは異なり、改訂された次の年度からすべての対象学年において同時に実施しなければならない。

ところで、第5学年（高校2年に相当）と第6学年（高校3年に相当）はMYPの対象学年ではないが、MYPに準じた本校独自の評価規準を用いて評価してきた。このたびのMYPのHumanitiesの評価規準改訂に伴い、第5学年と第6学年の評価規準をどのようにするか検討したが、MYPの旧評価規準を準用したこれまでの評価規準の方が5～6年生を対象とする評価の観点としては適しており、また、日本の学習指導要領における観点とも整合性があると考え、今年度だけでなく、次年度以降も第5学年と第6学年に関しては、MYPのHumanitiesの旧評価規準を基にして修正を加えた本校独自の評価規準を引き続き使用することに決定した。

第1学年～第4学年を対象としたMYPのHumanitiesの新旧の評価規準、および本校でMYPに準じて第5学年と第6学年を対象に設定している評価規準は、次の通りである。

(2) MYPのHumanitiesの旧評価規準…2012年度まで第1学年～第4学年に適用

- 規準A：知識（Knowledge） 10点満点
- 規準B：概念（Concepts） 10点満点
- 規準C：スキル（Skills） 10点満点
- 規準D：構成とプレゼンテーション（Organization and Presentation） 8点満点

規準A～Dの観点ごとの点数を合計した38点満点を、次のように換算して7段階評価を出している。これは、MYPで決められた換算である。

各学期および年間のMYP 7段階評価のほか、1～3年生については年間の5段階評定、4年生については各学期の5段階評価と年間の5段階評定も出している。5段階評価・評定とMYP 7段階評価との関係性については科目系統や授業担当者によって異なるが、観点別評価に基づいて5段階の評価・評定を出している点は、7段階評価と同様である。

7段階	7	6	5	4	3	2	1
A~Dの合計	38～34	33～29	28～24	23～19	18～13	12～8	7～0

(3) MYPのHumanitiesの新評価規準…2013年度から第1学年～第4学年に適用

- 規準A：知識と理解 (Knowledge and understanding) 8点満点
- 規準B：調査 (Investigating) 8点満点
- 規準C：批判的思考 (Thinking critically) 8点満点
- 規準D：コミュニケーション (Communicating) 8点満点

規準A～Dの観点ごとの点数を合計した32点満点を、次のように換算して7段階評価を出している。これは、MYPで決められた換算である。

各学期および年間のMYP 7段階評価のほか、1～3年生については年間の5段階評定、4年生については各学期の5段階評価と年間の5段階評定も出している。5段階評価・評定とMYP 7段階評価との関係性については科目系統や授業担当者によって異なるが、観点別評価に基づいて5段階の評価・評定を出している点は、7段階評価と同様である。

7段階	7	6	5	4	3	2	1
A~Dの合計	32~28	27~23	22~18	17~13	12~8	7~4	3~0

(4) 第5学年・第6学年の評価規準

MYPの旧評価規準のうち、規準A～Cの3観点をを用いて評価している。第5学年と第6学年はMYPが適応される学年ではないが、MYPに準じた本校社会科独自の観点別評価を用いることにより、4年次までと連続した規準で評価を振り返り、生徒が学習活動に役立てることができるよう配慮している。なお、5・6年次は科目系統ごとに観定の重み付けを変えているが、3観定の合計が24点満点であることは社会科で共通である。

学期ごとに10点法で評価を示し、年間について5段階評定を出している。観点別評価の合計24点と、10点法評価および5段階評定との関係については、科目系統や授業担当者によって異なる。

科目系統	世界史	日本史	地理	公民
科目	世界史A 世界史B 歴史特講 〔世界史〕	日本史A 日本史B 歴史特講 〔日本史〕	地理A 地理B 地理特講	倫理 政治経済
○ 規準A：知識 (Knowledge)	12点満点	12点満点	8点満点	8点満点
○ 規準B：概念 (Concepts)	8点満点	6点満点	10点満点	12点満点
○ 規準C：スキル (Skills)	4点満点	6点満点	6点満点	4点満点
3観定の合計	24点満点			

4 社会科における評価に関する成果と課題

MYPの導入は、教員にとっても生徒にとっても大きな意識の変革をもたらした。MYPでは、課題ごとに評価規準（評価の観点）に対応した評価基準（評価の目安）を事前に生徒に示すこ

とが求められており、そのことが教員と生徒の双方に次のような効果を生み出している。

教員にとっては、MYPの評価規準に対応した課題を設定したりテスト問題を工夫したりする必要が生じ、観点別評価の重要性を意識するようになったことは大きな成果である。つまり、学習内容と評価の連携を図りながら授業をデザインしていくようになってきたということである。

生徒にとっては、評価の観点を意識しながら学習課題に取り組むことを通し、目的や目標を意識しながら学習を進めることとなり、学習に対する動機づけや問題意識を高めることにもつながっていることは確実である。

他方、今回、MYPのHumanitiesの評価規準が改訂されたことに伴い、いくつかの課題も浮かび上がってきた。新評価規準に基づく学習活動は、本稿執筆時点（2013年8月）で1学期のみであり、成果と課題を整理するにはまだ早いかもしれない。しかしながら、4つの観点の分け方についても、各観点をどのような学習活動と結び付けてどのように評価すればよいのかということについても、旧評価規準に比べて困難な点が生じているのは確かである。

そこで次章では、世界史の事例における具体的な学習活動を通して、現時点での評価に関する成果と課題を検証してみることにする。

Abstract

TGUISS has introduced the International Baccalaureate Middle Years Programme (MYP). Social studies correspond to Humanities in the MYP. This article provides an overview of our social studies classes and reports on the educational impact of the introduction of MYP assessment criteria, making a comparison between the current and former assessment criteria for Humanities and identifying issues raised by the revision of assessment criteria.